

◎特集 1 / 県立博物館開館 5 周年記念特別展「甲斐源氏—列島を駆ける武士団—」について

◎特集 2 / 山梨に生まれた阪急・東宝の創業者、宝塚歌劇の創設者小林一三の世界展について

- 平成二十二年度「キャリア教育」推進に向けて
- 国民読書年関連事業について
- 平成 22 年秋の企画展「井伏鱒二と飯田龍太 往復書簡その四十年」
- 第 28 回特別展「発掘された女性の系譜～女性・子ども・家族の造形～」
- 11 月は全国青少年健全育成強調月間です
- ミュージアム甲斐・ネットワーク / 清里北澤美術館、久保田一竹美術館
- らくがき 都留市立谷村第一小学校 小俣 善美教諭
山梨市立山梨北中学校 雨宮 弘志教諭
- フェリックス・ティオリエ写真展—いまよみがえる 19 世紀末ピクトリアリズムの写真家—
- 学校紹介 / 甲府市立北西中学校、県立吉田高等学校
- 総合教育センター情報 / 子供を取り巻くネット社会と情報モラル教育
- 県立図書館 / 「レファレンスの道具箱 山梨県のスポーツ史について調べる」
- 山梨の文化財 / 登録有形文化財（建造物）唐沢堰堤
- 主な行事予定



特集1

県立博物館開館五周年記念特別展「甲斐源氏——列島を駆ける武士団——」

— 県立博物館 —

今から約八〇〇年前、日本列島各地で繰り広げられた源平合戦の最中、鎌倉幕府を開いた源頼朝が頼りとする一方、大変恐れられた武士団が甲斐国にいました。「甲斐源氏」と呼ばれる清和源氏の一族です。

甲斐源氏は、平安時代後期の武将源義光を先祖としています。義光は、武芸をもって朝廷や都を守る軍事貴族であった清和源氏の一族で、園城寺（三井寺・滋賀県）の守護神である新羅明神の社前で元服（成人のこと）したため「新羅三郎」と称しました。

義光は、東北地方で起こった後三年合戦（一〇八三〜一〇八七）では、兄の源義家（八幡太郎・頼朝・義経の先祖）を助けて活躍し、その名を世に広めました。義光はもともと常陸国（茨城県）から陸奥国南部（福島県）にかけて領地を持っていましたが、義光の子義清は、武田郷（茨城県ひたちなか市）を本拠とし、武田冠者と称しました。武田家のルーツは茨城県にあつたのです。

その後、義清とその子清光は、常陸国の地元勢力と対立して甲斐国市河荘（昭和町、中央市、市川三郷町付近）に移り住みましたが、やがて一族は甲府盆地一帯に本拠地を構えました。彼らは、加賀美・奈古（南湖）・秋山・小笠原（以上南アルプス市）・平井・河内・石和（以上笛吹市）・曾祢・一条・板垣・小松（以上甲府市）・浅利（中央市）・南部（南部町）など、山梨県内の地名を

苗字とし、その地に根付くようになります。

そして、治承四年（一一八〇）に源平合戦が始まると、清光の子で当時の甲斐源氏において中核的な役割を果たしていた武田信義・安田義定ほか、富士川合戦（静岡県）で平氏の軍勢を撃退する活躍を見せ、駿河国・遠江国（静岡県）など東海地方に独自の勢力を築きました。

さらに、源義経の戦いぶりでも有名な一ノ谷合戦（兵庫県）では、安田義定が一軍を率いて平氏の武将を討ち取り、また平氏が滅亡した檀ノ浦合戦（山口県）でも、浅利義成が義経の命令で遠矢を射たエピソードが平家物語で紹介されるなど、甲斐源氏の一族は数々の合戦でその名を世に轟かせました。

しかしながら、甲斐源氏の活躍は、同じ清和源氏の一族である源頼朝に警戒され、追放や殺害される者もいました。この一方、信義の子武田信光や加賀美遠光の子小笠原長清は、頼朝や鎌倉幕府から重用され、その子孫は「鎌倉中」と呼ばれる武家の名門の地位を確立しました。また、加賀美遠光の娘大式局は、源頼朝の子である頼家（二代将軍）、実朝（三代将軍）の養育係を務め、鎌倉幕府の中で影響力を高めました。

さらに、甲斐源氏の一族は全国に領地を獲得し、各地に広がっていきました。例えば、陸奥国北部（青森県・岩手県）の南部家、信濃国（長野県）の小笠原家、阿波国（徳島県）の三好家、若狭国

（福井県）・安芸国（広島県）の武田家ほか、日本列島の各地に広く展開し、各地の歴史にその名を刻みながら、甲斐源氏としての意識やネットワークを持ち続けることとなります。

ところで、四方を山々に囲まれた山梨は、古代から牧が置かれ馬の飼育が盛んでしたが、こうした山梨の風土で育まれた甲斐源氏の弓馬の武芸は、鎌倉幕府からも注目されました。特に小笠原長清の武芸を起源として掲げる小笠原流礼法は、室町時代から江戸時代にかけて、武家の代表的な作法として室町幕府、江戸幕府や大名たちに重んじられ、現在では、冠婚葬祭や暮らしのマナーとして日本の文化の中に広く根付くようになりました。甲斐源氏の伝統は、現在まで受け継がれているのです。

特別展では、日本を代表する文化財としてニューヨークのメトロポリタン美術館にも出品された、南部家ゆかりの白糸威褰取鎧兜・大袖付（国宝、青森県 櫛引八幡宮蔵）や武田信義ゆかりの阿弥陀如来及両脇侍像（重要文化財、葦崎市 願成寺蔵）、加賀美遠光ゆかりの不動明王像（重要文化財、身延町 大聖寺蔵）をはじめとする約一〇〇点の名品をとおして、甲斐源氏のルーツや足跡を紹介します。大変貴重な機会ですので、この秋には、ぜひ県立博物館に御来館ください。



白糸威褰取鎧 兜・大袖付
(しろいとのおどしつまとりよろい かぶと おおそでつき)
 (国宝、青森県 櫛引八幡宮蔵)

◇開催期間・時間

平成二十二年十月九日(土)～十二月六日(月)
 九時～十七時
 (入館は十六時三十分まで)

◇常設展十企画展共通券

一般 一二四〇円
 高校・大学生 五八〇円
 小・中学生 二九〇円

◇休館日

毎週火曜日
 (但し、十一月二十三日は祝日のため開館し、翌二十四日を休館とします。)

◇観覧料

一般 一〇〇〇円(八四〇円)
 高校・大学生 五〇〇円(四二〇円)
 小・中学生 二六〇円(二二〇円)

※()内は二〇名以上の団体料金、県内のホテルや旅館に当日か前日に宿泊する方を対象とした割引料金です。

※県内在住の六十五歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方、土曜日における小・中・高・特別支援学校の児童・生徒は無料です。

※無料、割引の対象となる方はそれぞれ証明するものをご提示ください。
 ※定期観覧券(年間パスポート)もごさいます。



源平合戦図屏風 (県立博物館蔵)

特集2

山梨に生まれた阪急・東宝の創業者、宝塚歌劇の創設者

小林一三の世界展—逸翁美術館の名品を中心に—

— 県立美術館 —

■小林一三の世界を紹介

山梨県北巨摩郡韮崎町（現、韮崎市）に生まれた小林一三（一八七三〜一九五七）は、阪急電鉄東宝の創業者として知られ、鉄道、不動産、電気事業、百貨店、映画、演劇など多くの事業を手掛けました。同時に宝塚歌劇を創始し、多数の著作を残し、さらに茶道具と日本古美術を中心とした美術品を集め、茶道の世界でも独自の美の世界を築きました。

本展では小林のコレクションを収蔵する大阪・逸翁美術館（逸翁）は小林の雅号）から、狩野光信、本阿弥光悦、尾形乾山、与謝蕪村、呉春、野々村仁清、北大路魯山人らの傑作、そして茶道具、調度品など、狩野光信《豊臣秀吉像画稿》などの重要文化財一〇点、与謝蕪村《晚秋遊鹿図屏風》などの重要美術品三点を含む美術品五〇



小林一三 1927年頃撮影

件を紹介しします。同時に、大阪・阪急学園池田文庫の所蔵する関係資料などから実業家としての業績をたどり、小林一三の世界を事業・文化の両面から紹介しします。

■小林一三の業績

小林一三は、一八七三（明治六）年一月三日、韮崎宿で酒造・絹問屋などを営む豪商「布屋」に生まれました。一五歳で上京して慶應義塾大学に入学。在学中に文才を発揮して小説「練絲痕」を『山梨日日新聞』に連載しました。三井銀行を経て、一九〇七（明治四〇）年に箕面有馬電気軌道―のちの阪急電鉄を設立します。

小林は沿線開発に着手し、現在に続く鉄道会社の多角経営モデルを確立します。宅地と住宅の分譲、ターミナル・デパートの先駆である阪急百貨店の開業、そして動物園、劇場、温泉などを備えた観光地・宝塚新温泉の開発など、人々の生活と娯楽に密着した事業を展開、きめ細かいサービスを提供して集客を行いました。その手腕はのちに東京・田園調布の開発にかかれ、初期の東急電鉄の運営を行います。他にも、職業球団・阪急ブレーブス、日本初のビジネスホテルである東京新橋の第一ホテルも小林が作ったものです。さらに多忙な事業のかたわら、戦中戦後の混乱期に商工大臣、戦災復興院総裁をつとめます。

宝塚新温泉での娯楽として始められたのが宝塚

歌劇でした。宝塚音楽学校を作り、老若男女、誰もが家族で楽しめる国民劇を目指して、日本初のレヴュー上演や三千人収容の大劇場建設など、次々と新しい方針を打ち出し発展しました。

宝塚歌劇は東京に進出し、日比谷に東京宝塚劇場を開場。その後設立された東宝は、映画制作を開始します。さらに日比谷映画劇場、有楽座、日本劇場、帝国劇場などを開業・経営の傘下に加え、日比谷に大劇場街を築きました。東宝は名古屋、京都など日本各地にチエーン劇場を開設、他にも梅田と新宿のコマ・スタジアムなど、小林は多くの劇場を作り上げます。特に、一九三七（昭和一二）年に開場した甲府宝塚劇場は、小林が故郷・山梨に設立した思い入れのある劇場でした。このように、小林は現在のような都市生活スタイルを実現したのです。

■小林が文化に向けた目

実業家・小林は生活と芸術の一致を理想とし、文化活動にも大きな力を注ぎました。その成果として、小説・脚本・演劇論・経営論など、『小林一三全集』七巻におよぶ数多くの著述が残されています。また、茶人としては、立礼式の茶室を考案するなど、独自の境地を開きました。そして五〇〇〇点以上の茶道具と美術品を収集しています（現在は逸翁美術館に収蔵）。多数の優れた作品を含むそのコレクションは、茶道具のほかにも、



上：狩野光信《豊臣秀吉像画稿》
下：与謝蕪村《晚秋遊鹿図屏風》(右隻)

◇キッズ・プログラム
あつまれ！びじゅつ探
検隊／対象 小学四
年生（保護者の参加
可）／日時 十一月六
日（土）午前一〇時
十一時三〇分／場所
県立美術館 ワーク
ショップ室・特別展示
室／申込期間 一〇月
二十三日～三〇日
親と子のアートレク
チャー／対象 小学一

*（ ）は二〇名以上の団体、前売、宿泊者割引
料金。小・中・高等・特別支援学校生は土曜日
無料。県内在住の六十五歳以上の方（健康保険
証等持参）は無料。障害者手帳をご持参の場合
ご本人と介護の方一名が無料。十一月二〇日県
民の日は入場無料。

◇シンポジウム「小林一三の世界をめぐって」／
日時 十一月二〇日（土、県民の日）午後二時
三〇分／講師 齋藤康彦（山梨大学教授）、向
山建生（山梨大学客員教授）、堀内實三（元株式
立美術館 総合実習室（申し込み不要、聴講無料）
伊井春樹（財団法人逸翁美術館館長）／会場 県
立美術館 総合実習室（申し込み不要、聴講無料）

※この他、記念映画会開催を予定しています。詳
細はチラシ、当館ホームページでご確認ください。
い。

■特別展開連イベント

日本の絵画と書、日本・中国・朝鮮陶磁、セーブ
ルなどの西欧の陶磁器、エミール・ガレのガラス
作品、工芸と多岐にわたります。
今回の特別展では、これら小林のコレクション
の中から、選りすぐりの逸品を展示、紹介します。

◇担当学芸員のギャラリー・トーク／日時 十一
月六日（土）、十一月二十三日（火・祝）午後二
時～／場所 県立美術館 特別展示室（申し込み
不要、特別展チケットが必要）
◇大人のための美術講座／日時 十一月六日（土）
午後二時～一時三〇分／会場 県立美術館 総合
実習室

（三年生とその保護者）日時 十一月十三日（土）
午前一〇時～一時三〇分／場所 県立美術館
ワークショップ室・特別展示室／申込期間 一〇
月三〇日～十一月六日

※キッズ・プログラムの申込について
往復はがきまたはFAXにてお申込ください。
希望者多数の場合は開始時間が一時間程度前後す
る場合があります。

往信面に①参加希望コース②郵便番号・住所③
氏名（ふりがな）・年齢（学校名・学年）④電話
番号（FAX番号）⑤参加される保護者名を、返
信面には郵便番号・住所・氏名を必ず記入してく
ださい。

◇申し込み先 〒四〇〇一〇〇六五 甲府市貢川
一―四―二十七 山梨県立美術館「キッズ・プロ
グラム」係／FAX 〇五五―二二八―三四一八

■会 期 一〇月三〇日（土）～十一月三〇日（火）

■休館日 十一月四日、八日、十五日、二十二日、
二十四日、二十九日

■観覧料 一般 一〇〇〇円（八四〇円）、大・
高生 五〇〇円（四二〇円）、中・小
生 二六〇（二二〇）円

生 二六〇（二二〇）円

平成二十二年度「キャリア教育」推進に向けて

— 義務教育課 —

平成二十一年二月に策定された『やまなしの教育振興プラン』の重点施策に、「体系的なキャリア教育の推進」が挙げられています。これは、これまで行われてきた小・中・高等学校の教育活動をキャリア教育の視点から見直し、十二年間を見通したキャリア教育の指導体制を整備することで、児童生徒が「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、社会人・職業人として自立していくことができるようにするためのものです。

県教育委員会では、昨年度から三か年計画で、次の三つを事業の柱として、「児童生徒キャリア育成推進事業」に取り組んでいます。

- ①キャリア教育推進会議の設置
- ②キャリアアドバイザー（推進中核教員）養成研修の実施
- ③研究協力校による調査研究

①キャリア教育推進会議の設置について

今年度は、平成二十一年度、この推進会議のワーキンググループで作成した「小・中・高等学校における体系的なキャリア教育推進の手引き」の活用が、重要な課題です。県内の全小・中・高等学校、関係諸機関に配付したこの「手引き」には、小学校、中学校、高等学校、特別

支援学校でキャリア教育を推進する意義や留意事項をはじめ、具体的な指導事例（指導計画と展開例）等が掲載されています。

「おうちでうけもつ わたしのしごと（小学校一年）」、「二つの一 成人式を成功させよう（小）」、「大きな小さなつたよ（小）」、「夢実現プロジェクト」将来の自分を見つめて（小学校六年）」など、小学校では六つの事例が紹介されています。



中学校では、国語科や道徳、総合的な学習の時間、進路指導などにおけるキャリア教育の事例が、高等学校においては、「ものづくりから資格取得へ（工業科 二年）」、「デュアルシステム（長期インターンシップ）（農業科 三年）」などに関する事例が紹介されています。

小・中・高等学校の「連携」の必要性については、キャリア教育に関しても同じです。この手引きに、小学校と中学校の連携について、「垣根」を取り払い『串』でつなぐ」という発想から、キャリア育成手帳の活用などについて紹介

しています。また、中学校と高等学校の連携についても、「先輩にインタビュー」という事例を紹介しています。

大切なことは、キャリア教育の山梨県版「手引き」を、これからより多くの先生方にご覧いただき、各先生方がそれぞれの立場で、実践に役立てていただくことです。その実践の積み重ねが、児童生徒がこれからの社会をたくましく生き抜いていくことに、つながっていくはず

②キャリアアドバイザー（推進中核教員）養成研修の実施

今年度も、昨年度に引き続き、新たに約一〇名の先生方に研修に参加していただき、キャリア教育推進の現状と課題に関する理論研修、キャリアアカウンセリングの理論学習と演習、キャリアプログラム作成の演習等を行う計画です。

③研究協力校による調査研究

押原小学校、押原中学校、甲府昭和高等学校の三校が、「連携」をキーワードにキャリア教育を実践しています。三校が連携した取組を、今後広く県下に普及させていきます。

国民読書年関連事業について

— 県立図書館 —

平成二十年六月、衆参両院全会一致で「国民読書年に関する決議」が採択されました。これを受け、今年、二〇一〇年を「国民読書年」として、国をあげて読書推進に取り組んでいます。

県立図書館でも様々な関連事業を企画しましたが、ここではそれらを振り返りながら、今後の予定を紹介いたします。

◆図書館ミニコンサート

より多くの方々に本と図書館を身近に感じていただくため、初めての試みとして、六月二日（水）、山梨交響楽団（弦楽四重奏）の皆さんをお招きしたロビーコンサートを行いました。図書館は、静かにするところというイメージがありました。七十名を超える方々にお越しいただき好評のうちに終えることができました。第二回は秋の読書週間中（十月二十七日～十一月九日）の開催を予定しています。

◆資料紹介展示とギャラリートーク

図書館では、毎年テーマを決めてロビーで所蔵資料を展示していますが、今年は、担当の司書が「ギャラリートーク」と題して、ご来館の方々に向けてわかりやすく展示資料の解説をいたしました。

第一回展示「こどもにすめたい本二〇一〇」（四月二十三日～五月三十日）では子ども読書推

進担当司書が二回、第二回展示「平成二十一年度新収蔵 山梨県関係出版物展」（六月四日～九月二十二日）では資料担当司書が三回実施しました。

◆上映会「本と映像で知る山梨」

図書館は本だけでなく貴重な映像資料も所蔵しています。

六月四日（金）、二十六日（土）、二十七日（日）の三日間、地下講堂で一九六〇年代の県政フィルムを上映しました。

アイオワ州から種豚の贈り物、地方病撲滅運動、第一回信玄公まつりなどの映像を懐かしくご覧になる方もいらっしゃいました。

◆夏休み読み聞かせ会

こども室では、七月三十一日（土）、八月八日（日）、二十二日（日）に、県立図書館協力員（ボランティア）による英語での絵本の読み聞かせと県内在住の外国人の方をゲストにお招きした楽しいおはなしの会を開催しました。

八月二十一日（土）には、グループ「まーの・あまーの」の皆さんによる手話を使った絵本の読み聞かせを行いました。

◆今後のイベントの紹介

これからも図書館では秋の読書週間を中心に多彩な事業やイベントを企画しています。一部を紹介すると・・・

「本を読もう、著名人からのメッセージ」（九月二十四日～十二月二十六日）山梨県ゆかりの著名人の推薦図書の展示。

「本と親しむ図書館ツアー」（九月～十二月 毎月一回）職員と協力員による館内のご案内。

「my図書館」楽へのお誘い（ポスターセッション）（十一月二日～十二月二十六日）、生涯学習成果をポスター形式で発表。

詳細は県立図書館のホームページやチラシなどお知らせします。是非、ご来館ください。



こどもの本のギャラリートーク

平成二十二年秋の企画展「井伏鱒二と飯田龍太 往復書簡その四十年」

— 文学館 —

小説と俳句というジャンルを超えて、四十年の長きに渡って親交を深めた井伏鱒二と飯田龍太。本展では二人の心豊かな文芸の交流の様子を紹介し、ます。

掛け軸の写真は、井伏鱒二が筆で書いて飯田龍太に贈った書で、このように書かれています。

あの山は誰の山だ どつしりとした あの山ハ

(井伏鱒二)

この書は、井伏鱒二が飯田家を訪れた際、飯田家の座敷で書いたもので、昭和五十二年に刊行された井伏鱒二の詩集、『厄除け詩集』に収録された作品の一篇です。

しかし、掛け軸の書と詩集とでは、最初の一行が異なっています。



詩集に収録されたこの

詩は、「あれは誰の山だ

どつしりとした あの

山は」となっています。

井伏鱒二は、飯田家の座

敷でこの詩を書こうとし

て、冒頭の一節を、「あ

の山は誰の山だ」と思わ

ず書いてしまったのだ

と思います。「山」が繰

り返され、リズムカルで

重々しい感じがします。

井伏は、昭和二十年代

の後半から約四十年間も

の長きにわたり交流を続

けた飯田龍太を思い浮か

べ、山の印象に重ね合わ

せていたのかもしれない。本展では井伏鱒二と飯田龍太の交流を県内のゆかりの場所に焦点を絞りながら紹介します。

石和、甲府、下部、長坂などその地を舞台に、釣りに、観桜にと、隔てのない交流は、互いの文学の作品となって結実しました。

相互に贈った筆墨、往復原稿三百八十通、ゆかりの単行本、雑誌など、約二百点の資料を展示します。時を超えて生き続ける井伏、龍太の交流の実際とその魅力に迫ります。

◇会 期 二〇一〇年九月十八日(土)～十一月二十三日(火)

◇開催時間 午前九時～午後五時(入室は四時三十分まで)

◇休館日 九月二十一・二十七日、十一月四・八・十五・二十二日

◇企画展観覧料

一般六〇〇(四八〇)円

大・高生四〇〇(三二〇)円

中・小生二五〇(二〇〇)円

()内は二〇名以上の団体

料金です。県内在住の六十五歳

以上の方、障害者及び介護者、

土曜日の小・中・高・特別支援

学校生の観覧は無料です。

写真上 井伏鱒二「あの山」書

写真下 井伏鱒二・

飯田龍太懇談

昭和五十五年

飯田家座敷にて

井伏鱒二(右)と飯田龍太(左) 山梨日日新聞社提供



第二十八回特別展「発掘された女性の系譜～女性・子ども・家族の造形～」

— 県立考古博物館 —

近年母子福祉や子育て支援など、女性や母性が着目されていますが、それでは女性は歴史の中でどのような役割を担い、どのように表現されたのでしょうか。

本展で、女性を中心に、子ども・家族にかかわる発掘調査で出土した遺物を通して、縄文時代から近年までの女性のあり方を探ります。

県内で出土した土偶を初めとする洗練された女性像はもちろんのこと、女性をかたどった埴輪や子どもの成長を願って作った子供の手形や足形など、日本各地で出土した逸品の数々を、ぜひこの機会にご覧ください。

◆展示の構成

プロローグ 女性像の出現

日本列島に女性をかたどった遺物が出現するのは、およそ一万二千年前の縄文時代草創期から早期。ここでは、愛媛県上黒岩岩陰遺跡から出土した女性線刻礫を展示します。

I 女性の素顔

遺跡から出土した人骨から、当時の女性の顔を再現しました。さらに服・髪型・アクセサリなど、縄文時代の女性の姿を垣間見ることができます。

II 女性の造形とその変化

縄文時代の人口増加、さらには動植物の豊穡を願って作られた女性像から、古墳時代の巫女をかたどった女性埴輪まで、女性像の背景から役割を見い出します。

III 出産と育児

出産の苦しみ、喜び、親の子どもへの想いなどは縄文時代も現代も変わりません。出産・育児の歴史を辿ります。

IV 女性の装いと道具

いつの時代も女性はおしゃれ。縄文時代から近代までのアクセサリを展示します。エピソード タバコを吸う女性たち
江戸時代の女性の墓から出土した副葬品から、当時の女性の習慣がわかります。

◆特別展の概要

開催期間 平成二十二年十月九日(土)～

十一月二十八日(日) *会期中無休

観覧時間 午前九時～午後五時

(入館は午後四時三十分まで)

観覧料 一般大学生六〇〇円

小中高生三〇〇円

電話番号 〇五五―二六六―三八八一

<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>



写真右 縄文のヴィーナス

(長野県尖石考古館所蔵)

写真左 子に乳を与える古墳時代の女性埴輪

(茨城県ひたちなか市教育委員会)



11月は全国青少年健全育成強調月間です。

— 社会教育課 —

青少年は未来に向かって限りない可能性と活力を持つかけがえない存在です。青少年を健全に育成するために家庭や学校、地域等が力を合わせ県民運動を推進しましょう。山梨県では、この期間中、青少年の健全育成のための様々な取り組みを、県内各地域で実施します。

主な取り組み

山梨県青少年健全育成推進大会の開催

県では、「地域で子どもを守り育てる～果たしていますかあなたの役割～」をテーマに、家庭や学校、地域、職場などみんなで青少年問題について考える「青少年健全育成推進大会」を開催します。

日時：平成22年11月5日（金）

場所：県立文学館 講堂

主催：山梨県青少年総合対策本部・社団法人青少年育成山梨県民会議・山梨県青少年育成カウンセラー会

内容：山梨県青少年健全育成功労者表彰

「家庭の日・青少年を育む日」ポスター表彰

講演

実践発表

参加料：無料

街頭キャンペーンの実施

啓発資材を配布し、「地域ぐるみで子どもを守り、育てよう」と県民のみなさんにアピールします

日時：平成22年11月3日（水）

重点項目

近年、我が国では、急速な少子化の進行や働き方の多様化、情報化社会の進展等により、青少年を取り巻く環境が大きく変化しています。

一人ひとりの青少年を健やかにはぐくむために関係機関及び関係団体等が相互に連携し、次のような取り組みを一体となって進めます。

☆青少年の社会的自立支援の促進

☆生活習慣の見直しと家庭への支援

☆児童虐待の予防と対応

☆青少年を犯罪や有害環境等から守るための取組の推進

- ・子どもの安全確保の取組
- ・有害環境への適切な対応
- ・いじめの未然防止と早期対応
- ・青少年の福祉を害する犯罪被害の防止

ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設の紹介をします。

清里北澤美術館 (北杜市)

清里北澤美術館は、1989（平成元）年、八ヶ岳山麓標高 1300 m の唐松林の森に囲まれたリゾート地にガラスの美術館として開館しました。

株式会社キッツの創業者北澤利男氏が長年にわたり収集した、19 世紀末フランスで始まったアール・ヌーヴォー期（新しい芸術運動）のガラス工芸品を常設展示する美術館です。

エミール・ガレ、をはじめドーム兄弟の作品とパート・ド・ヴェールという特殊技法による作品を中心に展示しています。

当館は、より多くの子供たちに美術に触れてもらおうと、

中学生以下は無料です。

八ヶ岳に抱かれた高原の美術館で、アール・ヌーヴォーの伸びやかな自然賛歌をお楽しみください。

住 所 北杜市高根町清里 3 5 4 5 - 1

電話番号 0 5 5 1 - 4 8 - 5 0 0 0

担当者 輿水

休館日 4 月～1 1 月 無休 冬季休館

入館料 大人 1 0 0 0 円 中学生以下無料
(団体 8 名以上) 大人 9 0 0 円

駐車場 無料 (普通 4 0 台、バス 4 台)

U R L <http://kitazawamuseum.kitz.co.jp/kiyosato>



唐松林の中にある美術館



暗室で作品に照明をあてた第 1 展示室



唐松林の中の第 3 展示室



パリ万博に出品された作品

久保田一竹美術館 (富士河口湖町)

赤松の自然林の中、雄大な富士と清澄な水をたたえる河口湖を望む絶好のロケーションに位置します。室町時代に栄え江戸時代の初期にその姿を消した、幻の染物「辻が花」に魅了され、二十年間の研究の末、過去の模倣ではなく、現代に息づく染色技法「一竹辻が花」として甦らせた染色工芸家、久保田一竹の作品を常設展示する美術館。

「一竹辻が花」は国内はもとより海外においても好評を博しております。一竹辻が花作品の他、一竹が永年に亘り収集してきた「蜻蛉玉」を展示するギャラリーや開放的な雰囲気を持つカフェ、ここでしか手に入らない貴重なアイテムを描えたミュージアムショップがあります。美術館庭園には多種多様な高山植物や木々が植栽され、四季折々の彩を楽しめます。ひと時を「一竹辻が花」とともに過ぎて

みては如何でしょうか。

住 所 南都留郡富士河口湖町河口 2255

電話番号 0555-76-8811

担当者 高村

休館日 12 月～3 月＝毎週水曜日

12 月 26・27・28 日（1 月の第 1 水曜日、祭日の水曜日は開館）4 月～11 月＝無休

入館料 大人 1300 円、大・専門学生 1100 円、高校生 900 円、中・小学生 500 円

団体（15 名以上）100 円割引、身障者は通常料金の半額（身障者手帳提示）

駐車場 無料（普通車 120 台、バス 10 台）

U R L <http://www.itchiku-tsujigahana.co.jp>



本館展示室



美術館全景（新館から本館望む）



茶房 [一竹庵]



らくがき

「私も何処かで・・・」

小俣善美

「おじいちゃん、おはよう。」と毎朝決まった場所で呟きながら車で通勤している。私は、いつからかそんな言葉を車の中で呟くことが日課となっていた。その言葉の先には、私を知らない見ず知らずの、八百屋さんのおじいさんがいる。毎朝お店の品物を店先に並べて、お店を開ける準備をしている。見知らぬおじいさんに挨拶している自分に時々おかしくなり吹き出してしまうこともあるが、毎日声を勝手にかけ続けている。そしていつか、腰にコルセットを巻きながらミカンやリンゴの箱を並べているおじいさんの姿に元気をもらうようにまでなっている。また、呟く言葉も「今日もがんばってきます。」といった自分を奮起させる言葉に変わってきている。

「人の一生懸命さは、人を勇気づけ、やる気をもたせてくれる」と何処かで読んだことがあるが、私は見ず知らずのおじいさんの一生懸命さに励まされ、勇気を実際にもらっていたのである。「私も誰かの勇気や元気の源になるぐらいの一生懸命な人になりたい。」と思う。ある時何気なく呟いた挨拶が始まりだったけれども、そのおじいちゃんから勇気をもらい、時には自分を振り返ることができた。「ありがとう、おじいちゃん。」そして、今日も車の中から自分勝手な呟き、「おはよう！！」で一日が始まる。

(都留市立谷村第一小学校)



「はやぶさ」に寄せて

雨宮弘志

夏休みに入ってすぐ、生徒を連れて県立科学館を訪れ、1ヶ月ほど前にニュースになった小惑星探査機「はやぶさ」の映像を観た。それは「はやぶさ」の7年間の旅の記録を、リアルなCG(コンピュータグラフィックス)で描いたものだ。

2003年5月9日に地球を旅立った「はやぶさ」の目的は、地球と火星の軌道の間位置する小惑星「イトカワ」の砂を持ち帰ること。その間に、「イトカワ」からの離陸直後に起きた燃料漏れと通信途絶、化学エンジンの全滅、4基中3基のイオンエンジンの故障という3つの危機を奇跡的に克服し、7年後の2010年6月13日、文字どおり満身創痍になりながらも地球に帰還した。

この快挙の陰には、関係者たちの熱い思いがあったに違いない。正確に飛行・作動させるためのコマンドを送り続けたり、行方不明になった機体を7週間も探し続けたり、予期せぬ状況の変化に対してあらゆる可能性を模索し、試みた関係者たち。そして、その気持ちに応えるかのように帰還した「はやぶさ」。

もし「はやぶさ」が言葉をもっていたなら、どんな話が聞けるだろうか。

(山梨市立山梨北中学校)

フェリックス・ティオリエ写真展

-いまよみがえる 19 世紀末ピクトリアリズムの写真家-

県立美術館

フランスの地方都市サン＝テティエンヌに生まれたフェリックス・ティオリエ(1842-1914)は、リボン製造業で成功をおさめたのち、1879年に37歳の若さで引退、残りの人生を考古学と写真にささげました。彼は、優れた写真家であると同時に、19世紀末にヨーロッパで展開された「ピクトリアリズム」や「自然主義」の芸術運動を代表する作家のひとつでもあります。

コローやアルピニー、ドービニー、ラヴィエなど、当時バルビゾンを中心に活躍していた画家たちとも交流を持っていた彼は、画家たちの作品から着想を得た写真を多く残しています。そのようなティオリエの写真には「絵のような」という形容詞がよく合います。

ティオリエの写真は長らくその存在を忘れられていましたが、1980年代に子孫によって紹介されることにより、

次第にその評価が高まっています。

今回の展覧会では、遺族らが所有する初期のカラー写真であるオートクロームや貴重なヴィンテージ・プリント約200点を展示します。本展では、「肖像写真」「パリの風景」「農村に暮らす人びと」「工業化の時代」「ティオリエの愛したフランス」「色彩の世界へ」の6章にわたることで、ティオリエの多種多様な写真をわかりやすく紹介します。あわせて、彼が使用したカメラや関連資料もご覧いただけます。

ティオリエの写真を通じて、ミレーやバルビゾン派の画家たちの生きた19世紀フランスの雰囲気味わうことができます。深い情緒と郷愁をたたえたティオリエの写真をご堪能ください。



《ヴェリエールの農場》1880～1910年頃



《収穫期の牛と荷車、ヴェリエール》1880～1910年頃

心豊かで かしこく たくましい人間の育成

甲府市立北西中学校

本校は、甲府市の北西部に位置し、西側には溪谷美で知られる昇仙峡を上流にもつ、荒川の清流があります。校地内には、多くの樹木が植えられた緑豊かな自然環境に恵まれた学校です。本校では、毎日の帰りの会の一コマに合唱タイムを設定して取り組む合唱活動を通じた集団づくりや、ボランティア活動などを通して、「心豊かで、かしこく、たくましい人間の育成」を目指しています。

◇親子道徳授業

開かれた学校づくりの一環として、親子が一緒に参加して、道徳の授業を行う機会を設けています。学年毎に追求すべき価値項目を定め、講師を招聘しての講話等を基に、



親子道徳授業

親子で感想や意見を交換し合い、親子がお互いの考え方を知る良い機会となっています。

◇ボランティア活動

毎年、夏休みに特別養護介護施設「志麻の郷」、「めだかの学校」を訪問しています。お年寄りと一緒に歌ったり、風船バレー等のゲームや、ちぎり絵を作ったりの交流を行い、互いを思いやる心を醸成する機会としています。

また、クリスマスには、合唱団と吹奏楽部が訪問し、コンサートも行っています。施設の方々には大変好評で、訪問をいつも心待ちにされているようです。



特別養護介護施設への訪問

富士山学 ～地域を学ぶ、地域に貢献する～

県立吉田高等学校

〈校訓〉「百折不撓」（幾たびの困難にも負けない強靱な精神を涵養する）、「純剛」（明るく爽やかで、意志強く、飾らない）を校訓とし、生徒一人一人が、学習とクラブ活動を両立させる質の高い文武両道を目指しています。どの教室からも、窓に視線を移せば、迫力ある富士山の姿を目の当たりにすることができ、生徒たちは富士山に暖かく見守られながら、学校生活を送っています。

〈富士山学〉本校では、総合的な学習の時間において「富士山学」を開講しています。この「富士山学」では、富士山および富士北麓地域を様々な角度から学び、また自ら調査・研究することを通じて、地域社会に今後のあり方を積極的に提案していくことのできる生徒の育成を目指しています。また富士山の世界文化遺産登録とも連携しながら、富士山とともに発展していく郷土への深い愛情を育んでい

きたいと考えています。

「富士山学」では、3つの領域からなる講座が開講され、その中から希望する講座を選択します。生徒たちは、各方面で活躍されている講師の講義をうけ、校外学習に参加し、またテーマに基づいた研究および実践活動などを通じて、レポートを完成させていきます。授業で学んだことを基にして、生徒たちは自由な発想で「富士山学」に取り組んでおり、普段教室では見せない表情を見ることができなのが、この「富士山学」の特徴です。

◇「富士山学」開設講座

- 《人文科学領域》・英語で見る富士・富士を芸術する
- 《自然科学領域》・富士山の動植物・富士山の地質
- 《社会科学領域》・富士北麓の歴史・富士山と防災 等



教室から見る富士山



樹海の探索

子供を取り巻くネット社会と情報モラル教育

— 総合教育センター — 情報教育部 —

山梨県における中学生の携帯電話所有率は全国で七番目に多く、全国の所有率が約五割であるのに対し、本県中学生では七割を超え、東京、千葉、神奈川等の大都市に続いて多くなっています。全国的に「裏サイト」や「プロフ」といったサイト掲示板に悪口を書き込むなどのネットいじめが深刻化する中、一昨年実施した「携帯電話に関する実態調査アンケート」によると、本県でもネット上に悪口などを書き込んだ経験がある中学生が一四・六%に達しています。一方、パソコンやネット

トに関するトラブルの内容としては、学校のパソコンに勝手にパスワードを掛けパソコンを使えなくしてしまったり、大量の情報を送り付けて学校のサーバーをダウンさせたりするなどが挙げられます。また、ネットオークションをする小学生も現れるなど、教師や保護者が考えている以上に深刻な状況です。

○人権侵害等への対応

当センターが昨年度実施した調査結果では、ネット上のトラブルの発生を学校が確認した学校数は中学校で全体の約半数でした。生徒本人や保護者から誹謗中傷の書き込みがあると相談があったり、学校や教育委員会が利用するパソコンは有害サイトなどに接続できないようにフィルターが掛かっています。確認作業は教員私有のパソコン

を使わざるをえず、対応に手間取るとともにウイルス感染などの危険を教員個人が負うことになっていました。このような現状から、教育センターでは所内に設置した特別なパソコンで「パソコン等のサイトによる児童生徒への人権侵害対応システム」を構築し、ネット上の監視活動を行っています。このように公的機関が直接監視活動を行っていることは、先進的な取組みで、他県からの問い合わせもあります。

当センターでは子供や学校に対するインターネット上の悪質な書き込みなどを発見した場合、センターから学校に状況をお知らせしています。また、学校においては、書き込みなどの問題を発

パソコン等のサイトによる児童生徒への人権侵害対応システム



見した場合は、すぐに相談していただくセンターの専用パソコンで内容を確認し問題解決につなげることができます。また、このようにセンターで一元的に確認を行うことには、使われやすいサイトなど、書き込みに関する傾向を分析しやすい利点があります。昨年度は相談活動とともに、掲示板への誹謗中傷の取り消し、有害サイト接続への対応、個人情報（写真）等のネットへの書き込みに対する注意等、約三十件のネット上のトラブルの解決処理を行いました。

○情報モラル教育

このような時代に必要な情報モラルの育成には、まず教員や保護者がインターネットの世界で起こっていることを把握した上で、児童生徒がインターネット上の問題に直面しないように、また、直面しても児童生徒が心身に大きな傷を受けることなく対応できるように指導することが重要です。さらに家庭でも、通信サービスを契約する際、児童生徒がどのように利用するか十分検討し、守るべきルール、マナー、危険から身を守るための注意事項などを教える必要があります。使い方によっては、加害者にも、被害者にもなり得る手段を児童生徒にもたせているという危機感をもつことが大切です。



レファレンスの道具箱 テーマ別調べ方ガイド

◇山梨県のスポーツ史について調べる◇

県立図書館

🍷 スポーツ史を全般的に調べるには

山梨県内や市町村内でスポーツがどのように行われてきたか、現状はどうなっているかを調べるには、県や市町村の体育協会が発行している資料や県史、市町村誌で全体的な動向をつかむことができます。最近では、都留市・大月市・韮崎市・富士吉田市の協会 50 年記念誌が発行されています。また、高野連や高体連などの協会誌も役に立ちます。

『山梨県体育史 1～3巻』（山梨県体育協会）

1巻は1969年、2巻は1989年、3巻は2008年とほぼ20年おきに発行されています。県の体育行政や地域体育団体や加盟している種目別競技団体なども掲載されています。

🍷 種目別に調べるには

種目別の歴史や現状は各団体が出している記念誌や逐次刊行物を使って調べることができます。弓道連盟や柔道連盟、グラウンド・ゴルフ協会の記念誌が最近発行されています。野球やラグビーなど有名な種目では、その歴史や活動状況をまとめた図書も発行されています。

『山梨のサッカー 過去・現在・未来をつなぐパス』（山梨日日新聞社 2005年刊）

甲府クラブ～ヴァンフォーレ甲府の歴史を中心に山梨県サッカー協会の活動状況など県内サッカー界の様子を紹介しています。巻末には山梨県サッカー年表がついています。

🍷 郷土出身のスポーツ選手を調べる

サッカーの中田英寿らプロスポーツで活躍した選手や飯室芳男、萩原智子といったオリンピックで活躍した選手、ポール・ラッシュらスポーツ振興に関わった人々の伝記を所蔵しています。また、山梨県関係の人物情報をリストにまとめた資料などでも調べることができます。

『21世紀－山梨の100人』（山梨新報社 2002年刊）

武藤敬司、小林雅英ら現在も活躍中のアスリートや指導者が多数収録されています。

🍷 統計・大会の記録を調べる

山梨県や各市町村では、「山梨の生涯スポーツ」などスポーツに関する統計がまとめられています。各大会の結果や様子は、当時の新聞からも調査できますが、国体やインターハイといった大きな大会は記録集が出ています。また最近では各団体のホームページ上に、統計や大会の結果が公開されています。

☆☆☆

☆☆☆

📧 インターネットで調べる 📧

(財) 山梨県体育協会 (http://www.sports.pref.yamanashi.jp/ysi_wdm/html/taikyo/)

県内のスポーツイベント情報や活動の様子が掲載されています。また加盟団体へのリンク集があります。

☆☆☆

☆☆☆

※ 今回紹介した資料以外にも関連資料を所蔵しております。ご利用ください。

山梨の文化財

県指定有形文化財（建造物）

唐から 沢さわ 堰えん 堤てい（北杜市白州町）

（平成二十二年一月十五日登録）

唐沢堰堤は、国（内務省）が、富士川水系釜無川上流に最初に築いた砂防堰堤で、本堰堤、副堰堤、水叩、コンクリートブロック等の複数の施設から構成されるものである。

昭和十一年に着工し、戦争中の工事休止（昭和十九年から昭和二十二年）を経て、昭和二十五年に竣工した表面石積の重力式コンクリート造堰堤である。堤長一〇メートル、堤高十二メートルの本堰堤に、水叩、副堰堤と連続的に築き、直下には三メートル角のコンクリートブロックを十七基並べて洗掘を防いでいる。唐沢堰堤の基礎は砂礫層であったため、砂礫地盤での局所洗掘防止の技術が駆使されている。

釜無川は、現在も土砂の流出等が激しい流域であるため、流域内の砂防施設は、幾度となく被災している。そうした中で、唐沢堰堤は、軽微な損傷が生じているものの竣工当時の形状を維持して、保存状況は良好であり、富士川流域での昭和初期の砂防技術史上貴重な堰堤として、当時の砂防計画や施工技術、施工方法等施工に関わる歴史と現在に伝える、歴史的価値の高い砂防施設といえる。

本堰堤から水が流れ落ちる様子は、滝のような迫力があり、良好な浸流空間を醸し出している。



本堰堤



全景

主な行事予定

県立美術館

特別展

「フェリックス・テイオリ写真展
いまよみがえる一九世紀末
ピクトリアリスムの写真家」

9/4～10/17

特別展

「小林二三の世界展
逸翁美術館の名品を中心に」

10/30～11/30

県立博物館

企画展

「甲斐源氏一列島を駆ける武士団」

10/9～12/6

県立考古博物館

特別展

「発掘された女性の系譜
～女性・子ども・家族の造形～」

10/9～11/28

県立文学館

企画展

「井伏鱒二と飯田龍太
往復書簡その四十年」

9/18～11/23

表紙を飾る



作品タイトル

「ぼくのくつ」

自分の靴をモチーフに作りました。新聞紙を芯にしてまるめ紙粘土をつけてハムのような形の土台から、苦戦しながらも徐々に靴らしく形成していきました。靴らしくなっていくにつれ、作品作りへの意欲が高まっていきました。左の早川君の作品は、靴紐の形まで丁寧に表現できました。右の手塚君の作品は、大胆に形を捉えて力強いものになりました。

指導者：竹内陽子

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

- ◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。
アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744
- ◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。
URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html